

《小学生の部》
佳作（警察庁交通局長賞）

茨城県下妻市立大宝小学校
3年 山中 鳩真

安心・安全は一人一人の心がけ

「えっ！また？」

ある朝、キッチンの方からお母さんの声が聞こえました。テレビを見ると、小学生がまきこまれたじこのニュースでした。五月ごろ、下校と中の小学生のれつに車がぶつかるというじこが立てつづけに起きていたからです。

ぼくは、急にとてもこわくなりました。どうしてかというと、いつも学校や家までふつうに安全に行けると思っていたからです。

三年生になった今では、右左右と十分に安全かくにんをしたり、れつからはみ出さないようにしたり、横だん歩道のしん号もきちんと守って、毎日登下校出来ていました。でも、それは当たり前のことではないんだと気づかされた出来ごとでした。

こんなかなしいじこは起きてほしくないけれど、いつ、どこで、だれに、何がおきるかは分かりません。ただ、ぼくたちが今、安全な登下校が出来ているのはなぜだろう？と考えてみると、わすれてはいけない三つの大切なことが見えてきました。

一つ目は、安全な通学ろにせっていされていることです。通学ろの中、歩道橋をわたります。車で帰った時は、道をそのまま進んだので、

「こっちの方が近いのにどうして。」

とお母さんに聞くと、

「車の交通りょうが多くてあぶないから、少し遠回りしても安全な歩道橋をわたるんですよ。」

と教えてくれました。そうやって、一つ一つ、きけんを回ひしてくれることを知りました。

二つ目は、ドライバーの人も気をつけてくれていることです。決まったスピードで走るだけでなく、横だん歩道がない場所ではぼくたちがわたるのをまっていてくれたり、ぼくたちを先に歩かせてくれたりします。思いやりの気持ちがとても大事だと思いました。

三つ目は、見守ってくれる人がいることです。集合場所までおくってくれるお父さん、お母さん。家の前でいさつをしてくれる地いきの人たち。見守りボランティアの人。はた當番の人や学校の先生。たくさんの人たちに見守っていただいているおかげでぼくたち

は安全に登下校できていることが分かりました。

この三つのことを通して、「ありがとう」と感しやの気持ちでいっぱいになりました。そして、このことはぼくだけでなく、通学はんのみんなや友だちにもつたえたいと思いました。

いよいよ来年の春には、弟も一年生になります。ぼくが感じたことを弟にもしっかりとつなげて、安心、安全に登下校出来るよう、ぼくもいっしょに見守っていきたいです。